



# きずな

21世紀を  
人権の世紀に  
しよう!

発行元: 四国中央市人権教育協議会 〒799-0497 四国中央市三島宮川4-6-55  
電話: 0896-28-6028 E-mail: jinkyo@city.shikokuchuo.ehime.jp

## 人権ポスター

寒川小学校 5年 井本 あすな 明花さんの作品



### 作者からのメッセージ

ポスターのテーマは「個性」で、一人一人が自分の個性や色を大切にしてほしいという思いを伝えられるように描きました。友達の素敵な個性も、認められる人が増えたらいいと思います。自分の個性も、まわりの人たちの個性も大切に、みんなにとって過ごしやすい世界になるといいなという思いをこのポスターに込めました。

### 今月の 主な記事

- 1 ページ 人権ポスター
- 2～3 ページ 社会教育部人権教育講演会 (島田 しまだ たえこ 妙子さん) 人権教育協議会 ホームページ 『虐待の淵を生き抜いて』
- 4 ページ インターンシップ研修の感想・編集室から QRコード



## 人権作文

### 「インターンシップ研修の感想」

令和4年度インターンシップ研修生 伊集院 紗菜 (いしゅういん さな)

インターンシップ研修を通じて四国中央市の人権・同和教育活動について学ぶ機会を頂きました。私は、小・中学生の頃に学校の授業で人権・同和教育を受け、当時は自分なりに真剣に問題意識を持つて取り組んでいたつもりでした。

しかし、隣保館の存在や活動内容、市内の学校の人権・同和教育にそれぞれの特色があることも初めて知りました。隣保館では外国にルーツを持つ人に向けた識字学級、学校とのつながりが強い啓発事業といった特色ある活動が行われていることが印象に残りました。私自身が身近に存在する人々の暮らしにくさに気付いていなかったことを自覚する機会にもなりました。また、フィールドワークを行って学んだ差別の現実やその時感じたことは、他の人権問題について考える時にも必ず念頭に置こうと思いました。

多くのことを学んだ中でも、「差別的発言に直面した時に相手の心からの理解を得られるような伝え方ができる人になるべきだ」というお話が心に残りました。その他にも、新規採用転入教職員等 人権・同和教育研修会や人権・同和教育推進者養成講座等に参加させていただきました。研修会に参加された方々が学びを次へとつなぐために様々な悩みや考えを持っていることを知りました。研修会が「差別をしてはならない」ことを知っている

だけで終わらない、「差別を許さない人間になる」というメッセージを子どもたちに伝えることにつながっていると思いました。

また、「インターネットと人権問題」というテーマの講演会では、インターネットを利用することで差別との距離が近付いているという問題について、正しい知識を持つておくことの大切さや差別的な情報や正しい知識を適切に扱える感性が育っていることが大切だということ学びました。私自身、高校生の頃にSNSを通じて海外の文化に関心を持つようになったことでLGBTQやジェンダーバイアスといった問題を知り、様々な人権問題に関心を持つようになったこと、様々な人権問題についてLGBTQの当事者が、歌手や俳優として第一線で活躍していたり、当事者以外が問題提起をしたり、差別の実情を訴えていたりすることを初めて知りました。また、当事者のコミュニティで、当事者としての経験を発信、共有する場を大切にしていることも学びました。

その一方で、そういった人々や活動に対する誹謗中傷や差別的発言の厳しさも多く目にします。堂々と酷い発言をする人々を見て憤りを感じ、あまりの過激さに落ち込むこともありましたが、問題提起し続けることや目をそらさないことも大切だと考えています。私自身の偏見や考え方を振り返ることもなるからです。

私がインターンシップ研修を通じて学んだ多くのことは、私一人で感じたというよりもお世話になった生涯学習課の方々との会話の中で明確になっていったものだと感じました。

## 編集室から

「はだいろ取って」  
「はだの色はいろいろあるからうすだいたいだよ。」  
言われてはっとした。そういうえば、そんな話を聞いていて、分かってはいたはずだが、実際は時代遅れの言葉を使っていた。それを上手に伝えられる子どもに感心し、自分の中の勝手な当たり前をアップデートしていかねばと痛感した。

時代が流れ、人権についての意識も高まってきた。また、学ぶ機会も増えた。性的マイノリティ、外国人差別、同和教育、情報の話などいろいろな研修の場で話を聞くことがある。様々な方の話を聞くと、差別をなくすために、体験したことや活動されていることを分かりやすく伝えてくれて、胸がいつぱいになる。知らなかったことで、そして、気付かなくて、相手と深く傷つけていたかもしれない。差別をなくすのは、私たちなんだと改めて分かる。何ができるかと考えることが増えた。日常の中にある「ちよっとおかしいな」に気付くことも出てきた。

子どもたちも、今、様々な学習を積み重ねている。人に優しく、正しいことが言える子どもたちになってほしい。一緒に思いを伝えることで、成長していききたい。

(I・M)

--	--	--

家族で回覧して下さい